

日本全国 能楽キャラバン!

in

下関

義経が鮮やかに語る

源平合戦—

屋島

弓流 那須語

光源氏の

心変わりが怨めしい—

葵上

梓之出 空之祈

令和5年 **1月22日(日)**
午後2時 開演 (1時開場)

会 下関市民会館 大ホール
場 〒750-0025 山口県下関市竹崎町4丁目5-1



文化庁 総務団体によるアートキャラバン事業
(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)

チケット料金

一般前売券 4,000円
一般当日券 4,500円
学生券 2,000円

全席自由

※状況により当日券販売を実施しない場合がございます。

チケット取扱

下関市民会館 TEL.083-231-6401 (9:00~19:00)

京都観世会事務局

チケット販売サイト▶

<https://piagettil.s2.e-get.jp/kyotokanze/pl/>
(WEB購入・子供の方は、セブンイレブンにて発券のうえご来場ください。)



お問合せ 京都観世会事務局 TEL.075-771-6114
(9:00~17:00) <http://kyoto-kanze.jp>

主催：公益社団法人能楽協会・公益社団法人京都観世会

後援：下関市・下関市教育委員会・NHK 山口放送局・山口放送・fqs TLEAD・
yob 山口毎日放送・fiv 山口・COME ON! FM・CROSS FM

日本全国
能楽キャラバン!

in

下関

令和五年 一月二十二日(日)
午後二時 開演(一時開場)
於 下関市民会館 大ホール

親世流能 屋島 弓流 那須語

前シテ/後鏡
後シテ/後鏡経の置
ツレ/後夫
ワキ/旅僧
ワキツレ/從僧
アイ/所の者
笛
小鼓
大鼓

宮本 茂樹
谷 弘之助
宝生 欣哉
御厨 誠吾
宝生 尚哉
茂山 茂
杉 市和
林 吉兵衛
河村 大

後見 大江又三郎
杉浦 豊彦
吉浪 壽晃
開後見 茂山千五郎
地謡 片山九郎右衛門
古橋 正邦
片山 伸吾
分林 道治
田茂井廣道
大江 泰正
河村 和晃
樹下 千慧

—— 休憩二十分 ——

大蔵流 狂言 呼声

太郎冠者
主人
次郎冠者
後見

茂山千五郎
茂山千之丞
島田 洋海
井口 竜也

(四時三十分頃)

親世流能 葵上 梓之出 空之祈

シテ/六条御息所の生置
ツレ/春日ノ巫女
ワキ/横川ノ小童
ワキツレ/目下
アイ/目下に仕える者
笛
小鼓
大鼓
太鼓

大江 信行
鷲尾世志子
御厨 誠吾
宝生 尚哉
井口 竜也
左鴻 泰弘
幸 正佳
河村 凜太郎
前川 光長

後見 青木 道喜
大江 広祐
浦田 保親
地謡 林 宗一郎
河村 晴久
味方 團
松野 浩行
河村 和貴
河村 浩太郎
宮本 隆吉

(終了予定 五時三十分過ぎ)



交通アクセス

- ・JR下関駅より、徒歩約10分
- ・中国自動車道「下関」より車で15分、「関門トンネル」より車で15分

- ◆新型コロナウイルス感染予防対策として、会場内でのマスク着用、手消毒等をお願いいたします。体調が優れない場合は、ご来場前に医療機関にご相談ください。
- ◆音や写真撮影・録音・録画はご断念ください。
- ◆上座中は、携帯電話など音や光を発する機器の使用はお断りください。
- ◆今後の状況により、出演者などが変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

能 屋島 弓流 那須語

春の宵、都からの旅の僧が扇島の浦に着き、浜辺の塩屋に宿を求めます。帰ってきた漁翁と若い漁夫は、粗末だからと一度は断りますが、都の者と聞いて懐かしがり宿を貸します。僧が羅平合戦の有様を知りたがる。漁翁は、義経の大將としての勇姿や、景清と三浦各四郎の「鏡引」、佐藤経信や兼王丸の壮烈な最期などを語ります。あまりの詳しくを不思議に思ひ名を尋ねると、漁翁は夢で待つよう言い残し、姿を消します。<中入> そこへ本当の塩屋の主がやって来て、その漁翁こそ義経の置だろうと言います。その夜、僧の夢の中に、甲冑姿も素晴らしい義経の置が現われ、この地に執心が残っているとの訴え、扇島の合戦の「弓流し」を語り、ありし日の戦いと修羅の苦しみを見せまします。しかし夜明けとともにその姿はなく、ただ浦風の音が聞こえるばかりでした。

『平家物語』を題材にした世阿弥の名作。「那須語」は那須与一が扇島を射た緊迫の場面を、〔義経・後藤兵衛実高・与一・掛り手〕の一人四役で語ります。



シテ 宮本 茂樹
(下関市出身)



ツレ 谷 弘之助
(美津市出身)

狂言 呼声

無断欠勤をしていた太郎冠者が戻ったと聞いた主人は、次郎冠者を供に連れて叱りに行きます。しかし、太郎冠者は二人が叱りに来たこと知り、屏留守を使って出でません。そこで主人と次郎冠者はなんとかして太郎冠者を家から引っ張り出そうと、色々と呼び声を交えたり罰を罰ったりと工夫しますが――

この狂言は、仕事をさぼって休んでいた使用人を主人が叱りにいく不奉公物の一つです。屏留守を使う太郎冠者を家町期に流行っていた「平家節」や「小歌節」「踊り節」を使って呼び出すのが、聞きどころ、見どころです。

能 葵上 梓之出 空之祈

京の都。光源氏の正室・葵上に、正体のわからぬ物の怪が憑いたため、烈日ノ巫女がその怨霊を呼び出したところ、いくわあげな貴女が破れ車に乗って現れます。それは六条御息所の生置で、かつて賀茂祭で葵上の一行と車争いをしたときに受けた屈辱の恨みと、愛する源氏の足が遠のいている憂きから出てきたものでした。先の東宮妃として悔いていた自分が、今は日影の身に落ちおれている――。臥せている葵上に激しく怨霊をおつけ、あの世へ連れ去ろうとします。<中入> 怨念の凄まじさに、行者(横川ノ小童)が駆け付け数珠を挿んで折衝を始めたところ、六条御息所の生置は悪鬼と変じて現われ、打杖を振り上げ激しく争います。しかし、ついに祈り伏せられ、成仏した身となって去っていきます。

『源氏物語』を題材に、高貴な女性の嫉妬と執念が描かれた人気の演目です。能の演出法として、舞台中央に置かれた小袖にて病臥の葵上を表現します。



シテ 大江 信行 ツレ 鷲尾世志子